婦人と新社會

山田わか主筆

七月號

毎月一回一日發行　第二拾九號　大正十一年七月一日發行

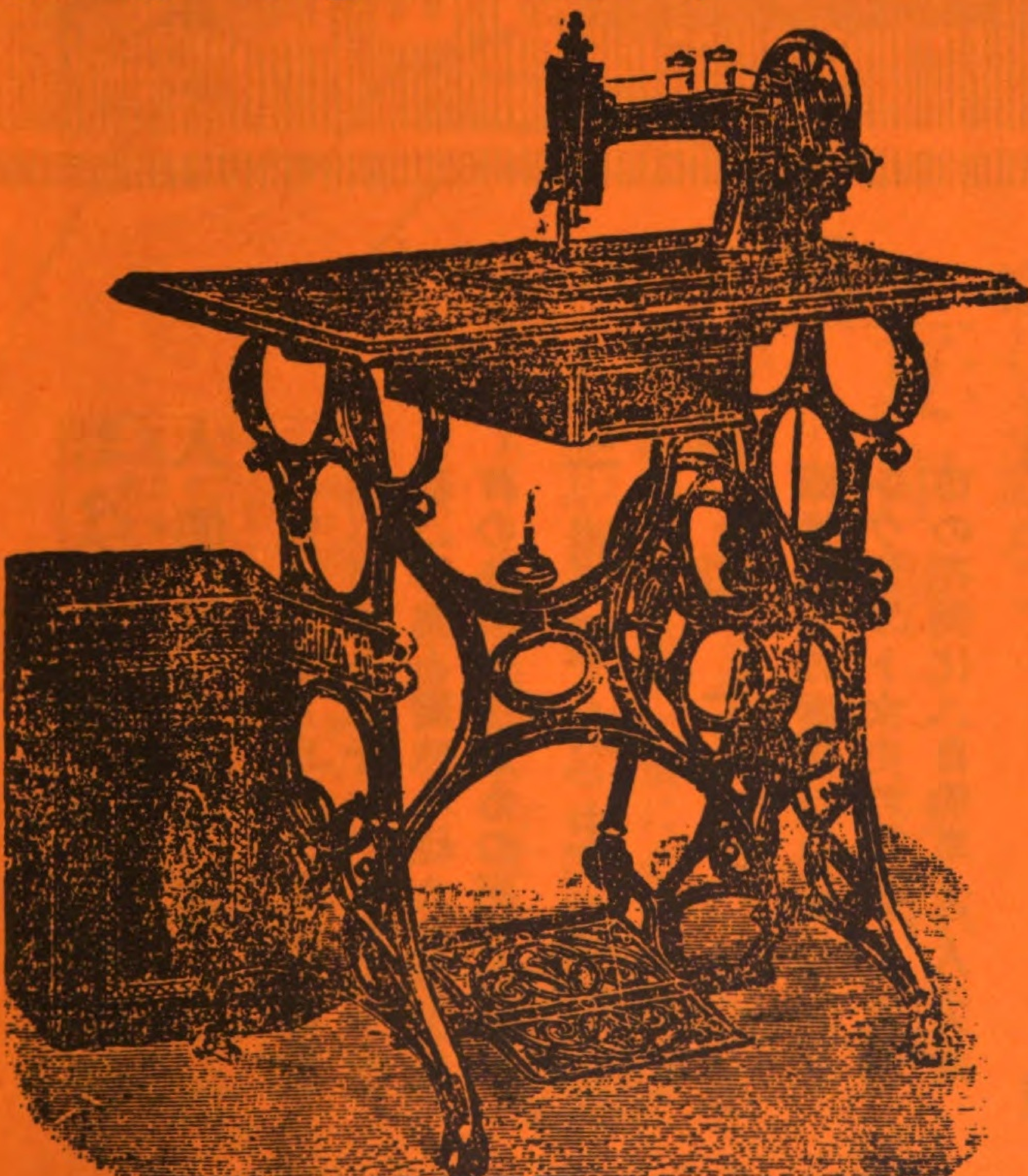
日本人ニ適當ナル獨乙製裁縫用ミシン

一家庭用蓋付手ミシン　金六十五圓也

一同蓋ナシミシン　金六十二圓五十錢也

一同蓋付足踏ミシン　金九十圓也

一同足踏ミシン　金八十五圓也



東京神田區須田町

日本商店

一手販賣店

電話神田三二四番　振替口座東京一一三九八番

婦人と新社會

七月號

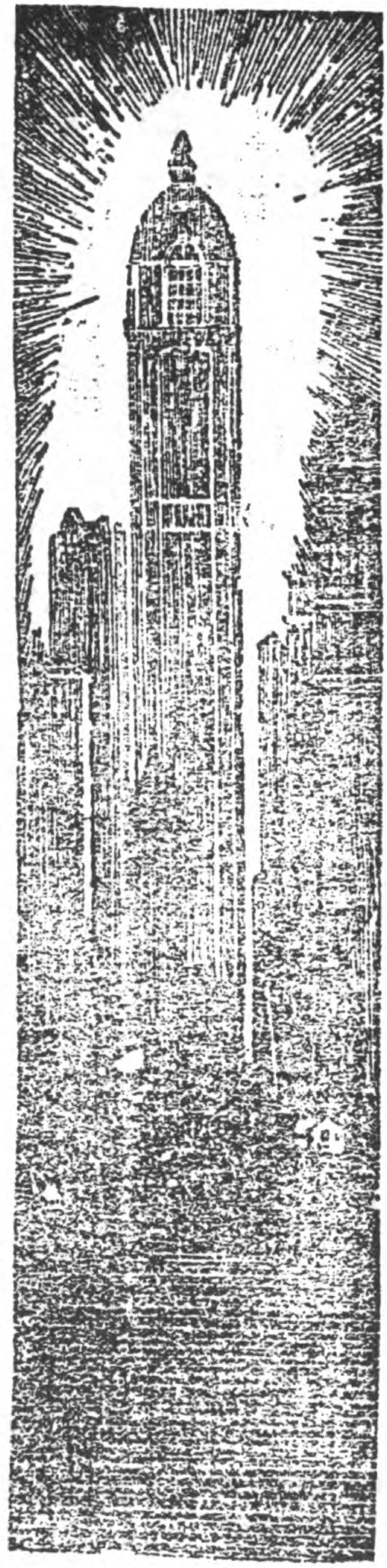
若々しさを保つ必要條件

或る人達は自分等の內部に存在する眞實なものを發見する理解力を有たない。又、或る人達は其の眞實なものを認める勇氣を有たない。そして、大多數は其の理解力も、其の勇氣も有たないで、嘘を云ひ、踏迷ひ、暗闇を摸索し、最後に遂にたどりつく沈滯した生活を續けてゐる。

若々しさを保つに、第一に必要なものは眞實である。自分の思想に忠實な人は誠意の人である。そして、誠意の中にのみ健康は見出される。

誠意を有たない人は早く老ゆる。我々を老ひさせるものは皺ばかりではない。

――フーエル――



人間性と社會生活

本能と社會

所謂人間性のうちには私共に好感を與へるものと、惡感を與へるものとがあります。つまり、人間性には正邪の別があるのです。これを簡單に申ますなら、人間には利己的の本能と社會的の本能と二つあるのです。社會的の本能と云ふのは、自己の慾望を

超越した、つまり、教育を受けて精選され、調和的になつた本能で、利己的の本能と云ふのは、直接の不利益が自分にふりかゝつて來ない以上は、全然、他人を無視する本能です。精選された本能は他人を通じて自分の滿足を得るに反して、利己的の本能は他人を無視して自分の滿足を得ようとするものです。そして、一般の人の本能は此の二種のうちの一種か、又は、其の二種が混合して居ります。

從つて、社會には俗惡な社會があり、精選された優美な社會がありますが、それは其の社會を構成してゐる各人の本能の種類によつて定まるのです。利己的な本能を持つてゐる人の數が多ければ其の社會は利己的で俗惡であり、教育され精選された本能を持つた人の數が多ければ、それだけ其の社會は精選されて優美です。

社會とは何ぞや

一體、人間性と云ふものは、むしろ、社會の生産物と云つてよいものですが、其處

で、當然、社會とは何ぞやと云ふ疑問が起つて來ます。常識の見地からは社會とは社會の諸制度をしめくゝつたものだと考へられてゐます。つまり、家族、學校、宗教團體、産業組織などを、全部含めて其れが社會であると考へられてゐるのです。そしてこう云ふ考へ方は、何となく、社會と云ふものは私共の外側の構造であるやうに思へます。

又、或る人は、人間の集合體が社會だと申ます。これは、確かに俗な考へ方ではありますが、併し、社會と個人とを同一にして見た處が注目に價します。けれども、同時に、又其れが完全に社會を云ひ現してゐるとは思へません。なぜなら、煉瓦を唯並べたり、積み上げたりしても其れが建築物ではないと云ふのと同じ意味で、唯、單に人間が集まつた計りでは一つの社會にはなりません。社會と個人との關係をどんな風に考へて見た處が、確に、社會は單に人間の體が集まつてゐる計りではないのです。單に數學的な乃至は統計的な單位の集合したものではありません。

社會とは何ぞやと云ふ質問に對する答へはいろ〳〵ありますが、其のうちの面白いのは、社會は個人の道具であるとか、又は、個人の延長であるとか云ふ定義です。そして、其の理由はこうなります。

人間の手は確かに人間の體の一部分であるが、同時に又人間の體の延長とも見ることが出來る。もし、人が怪我をして片手を失ふならば彼は義手を造つて自分の手の代用をさせる。それと同じやうな理由で、私共の手道具、たとへば、箸だの、庖丁だの鋏鎌などは私共の手の代りであり、私共の體の延長です。もし、又、他人の手でも私共の命令に從つて仕事をするならば、其の人の手は私共の手の延長です。ですから、西洋では手傳人をハンヅと申ます。新しい女中が來ると、奥さんは『新しい手が來た』と云ひます。日本でも、働く人が少ない時に、『手が少ないので』とか、『手がないので』とか云ひます。こう云ふ意味で申ますなら、社會の諸制度は個人の便宜を計るために存在するものでありますから、其の諸制度のしめくゝりである社會は個人の道具

であると考へても差し支へないわけになります。
諸制度のしめく〻りが社會であるから、そして、諸制度は個人の道具であるから、社會とは道具のしめく〻りであると云ふことになるのです。そして、此の見地からは社會は共同作用で立つてゐる大きな共同會社のやうなものです。
經濟學者が研究しやうとする社會は此の方面です。そして、此の見地から見ると個人と個人との關係は人間の外側の關係です。丁度森の中に並んで立つてゐる樹と樹との關係のやうなものになります。
個人の道具である諸制度をしめく〻つたものが社會であると云ふ意見と對立して生物學的の定義があります。これは、社會と云ふものは人間の本能の上にのつかつて居ると云ふのです。つまり、本能に從つて一ヶ所に群居したり、模倣したりすることによつて社會は出來たと云ふのであります。ですから、此の定義の對照となるものは、夫婦、子供、老人などを含めた家族です。そして、此の場合の個人と個人との關係は

内部的で、そして、社會構造の永久的な部分を成してゐるものです。

要するに、社會とは何ぞやと云ふ質問に對する答のうちで、社會は個人の集合體だと云ふのも、生物學に基礎を置いた定義も、社會は個人の道具である、と云ふ定義も、皆、社會に付ての一部の眞理を云ひ現したものですから、其の凡てを總合したものが社會であると云ふことになります。で、先づ、社會とは心理的相互作用の結果であると云へませう。人の心の相互作用が此の社會を造つてゐると云ふことになるのです。

本能教育の必要

で、もし、個人々々の生れつきの差によつて其の個人々々の社會上の位置が前以て定められてあるやうな社會組織であるならば、社會に競爭と云ふものはないことになります。けれども、實際には個人々々の本能の差と、競爭によつて社會は變化して行

くのみならず、人々の習慣や、輿論や、又は、契約によつて此の社會の姿は變つて行きます。人間社會に於ては、本能が習癖となり、情緒が情操となつて社會の姿を變へて行きます。

此の本能が習癖となり、情緒が情操に變つて行く過程が、最も大切でありまして、此處に、敎育家諸士、及び、家庭婦人の重大なる任務があることは私が常に說いて居る處であります。

動物の社會は、全然、本能以外には出ない、本能のまゝの行動をとつてゐるに反して、人間の社會は其の本能を敎育し精選することが出來る。本能以外には出ない動物の社會の姿は昔のまゝであるに反して、人間社會は日に月に進歩して行く、そして、これは本能を敎育し得た社會的の遺產のおかげであります。

私は、一度、本能の高尙化と云ふことを書いたことがありますが、それは、どう云ふことかと申ますと、動物の社會は、全然、持つて生れた本能以外には出ませんから

昔のまゝの姿で居るに反して、人間の社會は追々に精選され、漸々と進歩して行きます。そして、これは、それだけ人間の本能が敎育され、精選されたことのしるしです。

たとへば、人間には怒ると云ふ本能があります。此の本能が少しも敎育されず、精選されず、持つて生れたまゝであるならば、立腹させられた時にはいきなり人に打つてかゝります。すぐに、腕力を振ひます。けれども、もし、其の本能が敎育され、精選されてありますならば、學校の敎場に於ても、運動場に於ても、家庭に於ても、商業或ひは其の他の事業に於ても、其の本能は腕力を振ふことの代りに奮發心となつて、自分のためにも人のためにも有益な方面に働くやうになります。

利己主義の本能でも、もし、それが高尙化されますならば、前にも申ました通り、其の本能は自己の利益計り計つて居たのでは滿足出來なくなつて、他人を通して滿足を得るやうになります。そして、それは結局利他主義になり、社會奉仕となつて社會が利益すると云ふことになります。

つまり、生れながらに利己的であつた本能が敎育を受け、精選され、調和的になつた結果、自己の慾望に超越するのです。本能が無敎育で全く利己的である間は、直接の不利益が自分に振りかゝつて來ない以上は、全然、他人を無視して自己の利益計りを計ります。けれども、其の本能が精選され高尙になつて居るならば、自分のお腹が一杯になつても、他人がお腹をすかして居るならば決して滿足することは出來ません自分の饑じさは我慢しても、他人の滿腹を見て滿足する、つまり、他人を通して自分の滿足を得ると云ふことになります。

もう一つの例を擧げて見ますならば好奇心の本能です。此の好奇心の本能が持つて生れたまゝで動くならば、他人の害にはなつても益にはならない方面に働きます。たとへば、他人の秘密に興味を持つたり、何の役にも立たない人生の暗黑面を知りたがつたりするやうになります。けれども、もし、此の好奇心の本能が敎育され、高尙化され、精選されますならば、それは智力的好奇心となります。そして、それが、有益

なもの丶發見となり、發明となり、科學の進歩となり、又は、其の外の有益なもの丶發達となります。食慾ですらも高尙化されるならば、正義又は眞理の追求となつて其の結果は、よりよき社會の實現となります。要するに世の中は人々の此の本能が進歩したゞけづゝ其れだけ進歩して行くのです。

併し、科學が進んで人間性の研究が進歩したとは申ましても、人間性の複雜さは其の最後の分解を許しません。人間の肉體と精神との關係や、自由意志と運命との關係などは、今日の人間の知識では到底分らないのです。ですから、ハバート・スペンサーですらも、彼の綜合哲學の一部を『不可思議』と題して居ります。又、社會學者のウオードは『自然に於ける一切のもの丶極局の性質を我々人間は知ることは出來ない』と云つて居ます。

人間の極局の性質は何であるかは到底今日の人間の知識では分らないのでありますが、併し、前にも云つた通り、人間には本能と云ふものがあつて、其の本能は生れた

まゝであるならば動物と大差ないが、併し、其の本能を教育することが出來る、そして、教育の仕方によつて進步があると云ふことは明瞭に證明されてある事實です。生きて居たい、死たくないと云ふ本能は生きとし生けるものゝ凡てを通して、最も强い本能です。けれども、此の本能ですらも、教育の仕方によつては其の姿を全然變へてしまいます。昔の武士が名譽のために、又は、君のために、或ひは又、國家のために、命を捨てることを何とも思はなかつたのは、其れが善いことか、惡いことかは別問題として、確かに、本能教育の可能を立證して餘まりあるものです。

現在の我が社會狀態

處で、今日の世界に於て、殊に、我が國に於て、最も缺乏して居るものは此の本能教育です。徒らに、個人の權利を主張したり、制度の改革を叫んで、人間自身が高尙にならねばならぬと云ふ處が等閑にされて居ります。

經濟組織を變更しやうとする運動や、諸制度を改革しやうとする運動を、私は無意義だとは申しませんが、併し、人間性の改革と云ふ處を忘れての其等の運動は、唯、騒々しい計りで得る處が少ないのであります。どんなに立派な家を建てゝも其の家の中に住む人間がだらしがないならば其の家はぢきにだらしのないうす汚たない家になつてしまいます。これに反して、人間自身がキチンとして居るならば、だらしのないうす汚たない家をもぢきにキチンとした清潔な家にします。

何か問題が起る度毎に、東京では日比谷公園に、芝公園に又は上野公園に多くの人が集まります。此の人の群の行動がどんなものであるかは私がわざ〳〵云ふ迄もなく誰でも知つてゐます。彼等はいつも國民を代表してと自ら宣言してゐます。新聞は、又、其れを國民の聲だとして書き立てます。けれども、本當に國家の基礎ともなり、眞面目な國民の代表者ともなるやうな健實な人は、何かことが起る度毎に日比谷へ走せつける暇を持たないと私は思ひます。人は皆それ〳〵の職分を持つてゐます。夫や

子供の幸福を常に念頭に置いて居る眞面目な家庭婦人は問題の起る度に日比谷へかけつけません。教職に忠實な教員も日比谷へかけつけるために生徒を教室に置き去りにするやうなことをしません。農業に熱心な農夫も田畑の仕事を等閑にして日比谷へかけつけないと思ひます。

本誌を毎月造つて居る印刷者は申ます。私は、自分の體が鉛臭くなる程年から年中活字に親しんでゐて他のことを顧る暇を持たない。そして、幾人も〳〵の職工を手がけて居るが、眞面目であり、そして、腕も確かな職工に限つて、決して、外には心を傾けずにいつも仕事に熱心だが、腕がなまくらな職工は始終どうしたら怠けることが出來るかと云ふことを考へて居るから、何か問題でも起らうものなら逸早く飛び出して行つてしまう。と。

で、私は思ひます。怠け者のより集りである群集の聲を、國民の聲だとか、國民の代表者だとか書き立てる新聞記者も、決して、本心からさうするのではなく新聞紙上

の目先きを變へるに急であつて、いつも何にかことあれかしと願つて居るので、唯、新聞紙上を賑すために、群集の騷ぎは新聞種には丁度よい、そして、其の騷ぎが直きにしづまつては興がないと云ふ處から、群集の行動がさも正當であるやうに、其れが全國民を代表するものであるかのやうに筆の先きで群集を煽動してゐるのであらうと云ふやうなことを切に思ひます。新聞紙の無責任、其の不徳に付ては雜誌『婦人と新社會』三月號に書いて置きましたから此處には略します。

社會と個人

私共は、度々、世界の大勢とか時代の趨勢とか云ふ言葉を聞きます。此の社會には一つの恐しい力があつて、人はどうしても其の力にひつつかまつてしまつて、其れに反抗することは出來ないものであるやうに考へてゐます。けれども、其の大勢とか趨勢とか云ふものは決して個人を離れて存在するものではありません。其の上に、其の

大勢とか趨勢とか云ふものゝ大部分が誠に根底のないアブクのやうなものである場合が度々あることを承知して居たいと思ひます。

個人と社會とを別なものとして考へてゐた結果、個人と社會とは根本的に相容れることの出來ないもの、つまり、社會と云ふものは個人とは全く無關係な原則の下に造られてあるやうに考へられるやうになりました。從つて、社會の幸福及び、目的は、恰も、神が前以て定めて置いたもので、其の社會のために個人が要求されるものは、丁度、自分とは無關係なものに税を拂ふやうに個人は考へるようになつたのでありま す。個人と社會とを別なものとして考へることをたとへて申ますなら、其れは人の笑顏と笑つた人とを別にして考へるのと同じです。

他の言葉を以て申ますなら、人の感情と道理とを別々にして人を解釋しやうとするのと同じです。道理と感情とは一個人のうちにあつてお互ひに微妙に複雜に反動し合つてゐるものでありますのに其れを別々なものとして切り離して考へて居たのでは到

底其の個人が分らないと同じやうに、社會と個人とを切り離して考へて居たのでは到底社會問題の解決はつきません。

社會と個人とは決して別なものではなく、個人あつての社會、社會あつての個人でありますが、併し、何か問題が起る度毎に日比谷へかけつける群集のやうなものは、決して、社會の基礎となつてゐる個人を代表した社會力ではなく、あの群集は、むしろ、精神病患者になぞらへられるものであることを私は考へます。

怒つたり笑つたり、泣いたり悲しんだりする精神病者は其れが自分自身の心の働きからさうするのだと云ふ處に氣が付かないで外側から怒らされたり、笑はせられたり泣かされたり、悲しまされたりするのだと思つて居るやうです。

勿論、精神病者の其の自働的に見ゆる心理狀態は有識ではなく、併し、機械的に動いてゐるのであると云ふことは此の頃了解されて居ります。つまり、精神病者の外面から見た行ひは、たとへ、無意識には相違ないが、矢張り、彼の心の働きから來てゐ

ることは明らかです。

處で、今日、社會的と云はれる問題の多くが、今申ました精神病者と同じく、無意識な心の働きから來てゐるのが澤山あります。そして、此の現象を始めて研究し始めた人はルボン教授でありますが、ルボン教授は、精神病者と同じく無意識のうちに騷いだり熱狂したりする人々の群を『群集』と名づけました。勿論、唯、人が集まつた計りでも群集は出來ますが、ルボン教授の云ふ群集とは、其處に群集心が出來上がつた場合ひを云ふのです。つまり、其處に集まつた人々の心のうちに一つの共通なものが動いてゐる場合ひを云ふのです。或ひは、又、此の群集心なるものは人々が集まつて來なくても出來る場合ひがあります。たとへば、黨派とか宗門とか又は或る主義とか云ふものゝ印刷物をもつて多くの人の心を組織するやうな場合には、人が集まらなくても群集心は成立します。

此の群集と云ふことは一つの社會的現象には相違ありませんが、併し、社會本來の

現象ではありません。つまり、必ず出來なければならぬと云ふものではないのです。たとへば、人が大勢集まつても、其れが教養ある人々の群であるならば、其の思想に於て行爲に於て群集的にはなりません。つまり、相當の自覺ある人々は雷同と云ふことをしないからであります。

群衆と五十一パーセント主義

大抵の場合ひ、群集のためには多くの場合ひ、個人も社會も苦しめられます。けれども、今日に於ては、多數の力則ち群集の力によつて或る目的を貫徹しやうとすることが追々流行になつて來て居りますが、併し此の群集心と云ふものは人格の價値を低くし、有益な智識の光りを鈍くし、文明を脅威するものであることを私達は承知して居たいと思ひます。

何にもかもを多數で律して行かうとする、つまり、群集の力で行かうとする今の狀

態は本當の意味の愛國心や、宗敎的、倫理的の利益や、又は、政治的經濟的の利益をも、一種の宣傳者の口を通して、黨派心を造つたり、非常な混雜を引き起したりする道具にされてしまうやうなことになります。

そして、私共が理想とするものが何であらうとも、其の理想に到達するために必要な自己修養と云ふやうなことは、餘まりに迂遠な現代的でないやうなことに思はれるやうになります。自己修養だなどと云ふやうなまだるいことをして居るよりも、自分の慾望を滿たすには數を賴めばよろしい、數の力では何事でも成就すると思ふやうになります。

ですから、今日に於ては、政治も商業上の廣告と同じ心理狀態になつてしまつて、政治家の眞實さも、金儲けを主としてゐる商人の眞實さと同じやうになつてゐます。勿論、群集を造ると云ふ習慣は現代に限られたものではないのですが、併し、群集心の强くなつたのは近頃の現象です。

普選問題であれ、外交問題であれ、風致問題であれ、大々的の宣傳、則ち、廣告をして、其の主義主張を大きな市場で賣らなければ成功は覺付かないと云ふやうな、今は、社會狀態です。

で、こう云ふ傾向の渦の中にあつては、眞純な思想や、本當に有益な主義や主張は全く其のかげを覆ふはれてしまつて、そして、俗惡なもの計りが勢力を占めることになります。多數を頼むと云ふこと、つまり、五十一パーセント主義を貫くのが目的でもの丶性質の善惡を詳細に調べやうとはしない、そして、これが最も多數の人の共鳴を得るものでありますから、其の結果がどんなものであるかは押して知るべしであります。

こう云ふ多數主義、五十一パーセント主義が個人の上に及ぼす影響はどんなものであるかと申ますならば、これは人々が自分自身を知ることが出來ない、自分を自分で所有出來ないと云ふことになります。つまり、人は一個の人間としてしつかりと自分

で築いた基礎の上に立てなくなる。ヽヽヽヽヽヽヽチユウブラリンになる。群集の、唯單なる旗持ちになる、他人の書いた劇を踊つて一生を費すことになる。さうして、本當の自分自身を失つてしまうのであります。

同じ悪い影響が社會の上にも持ち來たされます。つまり、社會の平和が亂されます、不必要な無意義な爭ひが起つたり、大言壯語が崇拜されたりして、本當の意味の愛國主義や、宗敎や道德はポンチ繪になつてしまいます。社會の調和は亂されてしまつて容易に整理出來る問題も紛糾に紛糾を重ねると云ふことになります。

ソビエツト政府を建設しようとした露西亞の革命の叫びは決して露西亞の勞働階級のみの特長ではありません。むしろ、あの叫びは世界至る處に勃興してゐた群集の叫びの一つであるのに過ぎないものです。もし、現代の世界が既でに精神的にソビエツト化して居なかつたならば露西亞のソビエツト政府は成立しなかつたでせう。世界の露西亞以外の國々がソビエツト政府の力を恐れて居ると云ふのは、各國に群集心理が

存在してゐることのしるしです。

實際、今日に於ては、勞働階級も、資本家階級も、社會改革家も、皆ソビエット式に考へ、ソビエット式の行動をとつてゐます。で、私共は今更にエマソンの戒しめの言葉を思ひ起します。エマソンは云ひました。『群集的に考へ、群集的に行ふことは危險である。しつかりと自分の精神につかまつてゐて、口を開く時には自分の其の精神を逃べなければならない。』と

群衆と變態心理

昔の人は社會問題らしいものが起ると、其れは人間性の弱點から來る罪惡だとして一言の下に解決してしまいました。

そして、十九世紀頃の功理論者は、人間がもつと開發されて、道理に叶つた行ひをするようになれば、どんな難しい社會問題も解決出來ると感じて居ました。

けれども、二十世紀になつてからは、今申ました功理論者の、人間は道理と利益のために支配されてゐると云ふ考へを捨てゝしまいました。

現代の社會心理學者は申ます。あらゆる社會現象は人間の本能から來てゐる、と。つまり、人間の凡ての行爲の動力は本能であると云ふのです。直接間接の差こそあれつまる處、人の行動を決定するものは本能であると云ふのであります。本能が或る刺戟を受ける。又は、或る衝動を起す、そして、肉體が動き出す。であるから、其の本能が人の凡ての行爲を決定し、智的活動に動力を供給する。最も高尙に發達した智力も、要するに、本能の衝動を滿足させる道具に過ぎない。そして、此の本能の衝動が個人並びに社會の生命を維持し、其の姿をかたちづくる原動力である。其の本能のうちに生命も、心も、意志もあると云ふのであります。

處で、今日の人間は知力に於ては非常に進步してゐるにも拘らず、德性に於て、今猶野蠻人であるのは、其の本能の敎育が等閒にされてゐたからであります。そして、

此の本能教育の缺乏が群集心理を構成してゐます。

群集心理を最も委しく研究した者はルボンであると云はれて居ますが、ルボンに次で此の研究に貢献したものはフロイドです。そして、フロイドの心理學が外のどの學派よりも、よりよく群集心理を説明すると云はれてゐます。

どうしてフロイドの群集心理學が外の心理學よりも、よりよく群集心理を説明するかと申ますと、其れが變態心理の研究だからであります。そして、フロイドの變態心理學が今の社會に有效にあてはまると云ふことは今の社會が病的であることの證據です。フロイドの心理研究によつてよく説明されると云ふことは、其の説明される目的物が病的であると云ふことの證據であります。實に、フロイドは申しました。今日の人間は、錯覺と、空想と、性慾に仕配されてゐるものである、と。又、今日の人間は一人前になる前に大抵は精神病患者になつてゐると。で、群集と云ふものは或る確固とした信念の上に造られるものでもなく、よく考へた結果出來るものでもない、實に

錯覺と空想によつて、かたちづくられるのであります。

けれども、其の錯覺と空想によつて集まつて居ても、彼等は前にも一寸申ましたが『國民を代表して！』と申ます。又、一派の政治家や新聞は彼等の聲を無條件で『國民の聲』だとして宣言してゐます。彼等に代表され、代辯されることを人は迷惑に感じないでせうか？

社會に對する個人の義務

其處で、私共は變態心理で動いてゐる群集に支配されたり、代表されることなく、本當に健實に有効に社會問題を解決するにはどうすればよろしいかと申ますなら、一體私共が社會に對する義務は何であるかと云ふことを知らなければならないのです。

俗惡な個人主義者、並びに、女權主義者は個人の權利伸長に急であつて、社會に對する義務と云ふことを忘れてゐました。けれども、社會に對する個人の義務は何である

かと云ふことを知るのが、先づ、社會問題を解決する核であります。

私共の生活が他人の生活と接觸する、其處に社會的事實が生れます。ですから、社會的見地と云ふことは、關係ある凡ての人の上にどう云ふ影響を與へるかと云ふことを根本として凡ての問題を考へ、そして、利益の公平と云ふことを標準として行動をとることであります。

此の見地から、私共の社會に對する義務は、私共自身は社會に造られたもの、つまり、個人と云ふものは社會的產物であると云ふ觀念を先づ持つことであります。社會と云ふものを一つの銀行になぞらへますならば、私共自身は其の銀行から借りた金のようなものです。私共の體は社會と云ふ銀行から借りてゐるものでありますから、私共がキチヤウメンに利子を銀行へ拂ひ込むことによつて、又は、餘裕が出來たならば其れを銀行に奉納することによつて銀行は太ります。

今日、流行の個人主義者並びに女權主義者が主張するような絕對の意味での個人の

獨立と云ふもの、則ち、自分で自分の好む社會、則ち、銀行を選むと云ふことは不可能なことです。なぜなら、個人は自分の生れて來る社會を自分で選むことは出來ません。

私がこう云ふ恰好の體を持つて此の日本國へ生れたのは、決して、私が選んで、此の日本が好きだから此處へ生れて來ようと思つて生れて來たのではありません。私共はこう云ふ顏、こう云ふ體、又、こう云ふ社會を先代から受けついで居るのです。出來合ひの社會の中へ生み落されたのです。けれども、自分が生み落された社會が自分の意に添はないものであるならば、つまり、自分に體を借して呉れた社會と云ふ銀行が貧弱であることが氣に入らないならば、其れを豊富なものにすることは出來ます。勿論、何千年の歴史を持つて、そして、何千萬人の會員から成り立つてゐる此の社會と云ふ銀行を、僅かに一人の手で短時間に豊富にするとか、改革するとか云ふのは容易な仕事でないには相違ありません。けれども、さうすることの誠意があり、其の誠

意を有効にする力を養ふならば、少なくとも、さうする氣運を促進することは出來ます。場合によつては其の邊で我慢しなければならないでせう。

政府と教育の缺陥を補ふものが社會奉仕

昔の人が或る一定の場所に群居して居たのは、食物をとる便宜上、又は、生殖のため、そして、其の外には外敵を妨禦するためでありました。けれども、人口がだんく殖へて來るに從つて、小さい群とより大きい群との間に利益の衝突が起るようになりました。其處で、或る種類の制裁が必要になつて來ました。制裁とは、つまる處、干渉の一形式です。

大きな群と、小さい群との間の關係を規定して置かなければならなくなりました。ツイには、全體の人の利益と衝突するやうなものは禁じ、全體の人の利益を增進するようなものを奬勵するようになりました。つまり、ものゝ價値の標準が出來たのです。

そして、其の仕事をする機關が成長して政府と云ふものが出來たのです。ですから、政府の仕事と、そして、合理的な敎育は、其の價値の標準を敎へるものであります。其處で、政府も敎育も社會的の必要から始まつたものであると云ふことが明らかになつて居ます。ですから、もし、政府の仕事や、敎育事業が適宜に其の義務を全ふして居たならば、國民は進步の道を順當にたどつて居たでありませう。併し、政府の仕事や敎育事業は適宜に其の義務を全ふして居ませんでした。其のために社會改造とか社會奉仕とか云ふことが盛んに稱へられるようになりました。つまり、社會改造とか社會奉仕とか云ふのは政府の仕事と敎育事業の缺陷を補はうとするものであります。

各人は社會に對して義務があると前に申ましたが、其の義務を遂行する手近な例は自分の餘裕を他人のために用ゆることです。此處に一人の生活に困つて居る人があるとします。其の人が生活の道を立てるに付て、手傳つてやることが各人の義務です。其の根本の目的は、普通の人ならば誰でも獨立の生計が出來るような社會狀態を造る

ことです。一方には、又、人の厄介になるような人物を造らないことです。

普通の人ならば誰でも困らないような社會狀態、又、他人の厄介になるような人間を造らない社會狀態を實現するには、どうすればいゝかと申ますと、此處にどうしても奬勵しなければならない傾向が三つあります。其の第一は、批評的態度、第二は、集合的制裁權の行使、第三は、行政機關の各部へ專門家を入れる、と云ふことであります。

批評的態度の必要

ツイ、此の頃迄、米國では選擧期節になると、行列や樂隊が盛んで、候補者の演說などは重きを置かれなかつたのでありますが、此の頃になつてからは、行列や樂隊は餘り振り向かれないで言論に重きを置かれるようになつたと云はれてゐますが、これは、選擧民に批評眼が出來て來たしるしで、同時に、候補者も自分の言論に對して責

任を持たなければならなくなつたのです。そして、これは、社會改革の第一歩であります。私共は、先づ、批評眼を養ふ必要があります。

そして、此の批評的態度には、又、三つの規則があることを忘れてはならないと思ひます。そして、其の一は眞實でなければならないと云ふことです。徒らに、新聞に名を出したり、感情的にものを云つたりするのではなく、何處迄も眞實でなければならないのです。

其の二は合理的で、時宜に叶つて居なければ有効でありません。歐洲の大戰爭に米國が加はつた時に、時の大統領ウイルソンは米國民の言論を差し止めてしまいました。あの、自由を標榜して居る國としては、非常な人權蹂躙のようでありますが、併し、それが時宜に叶つて居るならば却つて有効であります。ウイルソンが或る友人に送つた手紙のうちに『平生なら何でもないことが、こう云ふ危機の迫まつた場合ひには非常な危險を釀すものだ。』と云ふ一句がありましたが、實に、其の通りなのです。此の

合理的で、時宜に叶つて居なければならないと云ふことは分り切つたことですけれども、此の分り切つたことが實際には分つてゐないと云ふことが人間性であるかも知れません。そして、其の例は、いつも、議會が示して居ります。本當の批評的態度は其の影を潜めて黨派がものを云つてゐると云ふ有様です。

其の三は、批評は健設的でなければならないと云ふことです。先づ、事實を知つてそして、其の上に何かゝ建設されるような批評でなければなりません。唯、單に辯説を揮ふことが社會批評ではありません。

此の頃は、辯説が非常に安くなつてゐます。昔は、辯説は少なかつたようです。或る有力な人の唯一言が國家を倒しもするし、起しもするし、多くの人の命が失はれもするし、助かりもしました。つまり、直接行動であつたのです。けれども、時代はだん〳〵進化して來て、腕力の代りに合理的な言論が用ひられるやうになりました。けれども、其れと共に又、弊害も伴つて來て、僞はりの議論や誇大妄想狂の議論などが

飛び出して來て、そして、案外其れが世間に受けて居るような場合があります。

勿論、世間は、さう云ふ人計りではありません。中には如何なるものに對しても、公平な見方をして、問題を正視して、是を是とし、非を非として居る人があります。そして、さう云ふ人がいつも社會の支柱となつてゐます。で、さう云ふ人が正しい批判を下したゝめに、宗敎は迷信と云ふキタナイ着物を着て居てはならないものであることを私共は悟りました。私有財産制度は法廷で考へるような神聖なものではなく、矢張り、社會進化の結果であることや、又は、個人の所有するものは其個人の獨占物ではなく、社會から依托されてあるものだと云ふことなどをも、私共は知るようになりました。つまり、確實な批評的態度を持つた人のおかげです。けれども、さう云ふ人の數はいつの世にも極めて少ないのでありますが、其の數の少ない人がいつも社會の支柱となつて居ります。確實な批評的態度を持つた人のおかげで、社會は進歩して行きます。要するに、渾沌とした社會を整理するものは、眞實で、合理的で、そして、

建設的な批評であると云ふことになります。

ですから、私共は、皆、批評家でなければなりません。けれども、絶望的に貧乏であつたり、又、或る程度迄の素養がなければ批評をする餘裕がありません。ひどい貧乏人は生活の苦しさを唯切實に感ずる計りでありませう。批評をするには勇氣と精力とが必要です。そして、其の勇氣と精力は、充分な衣食住、つまり、生活の餘裕と教育とから來るものです。

西洋では、文藝復興時代の三世紀と、公立小學校組織時代の百年と、それから、公立圖書館設立時代の五十年と、此の四百五十年間の最も有益な產物は、國民に批評的態度が出來たと云ふことです。勿論、西洋だからと云つて國民の一人殘らずが批評的になつて居ると云ふのではありませんが、さう云ふ精神が確立したと云ふのでありまず。つまり、社會的並びに個人的生活が進步した證據は、或る一つの問題を見て其れを解決する能力が出來たと云ふこと、そして、其の問題を解決する能力は批評眼の發

迄によるものであります。

集合的制裁權の行使

今日の社會を改革するに付て、どうしても進めて行かなければならない第二の傾向は集合的制裁權の行使と云ふことです。これを法律的の言葉で申ますならば、國家の警察權の延長と云ふことになります。

警察權と申ますと、今日迄の習慣として、私共は消極的の方面計りを考へ勝ちです警察權を消極的に延長致しますならば、其れは警官や軍隊の増加となります。けれども、私が此處で申ます警察權の延長は積極的方面に付いて云ふのです。つまり、惡い者を探すと云ふよりも、善いものを保護すると云ふことになるのです。

一體、警察權の使命は一般國民の幸福を增進する機關であります。たとへば、土地樹木、水、鑛物と云ふようなもの、其の外一般の一國の富源の亂用を防止するもので

す。其の外、衞生上、商店が取り扱ふ食料品を檢査したり、買占めを取り締つたり、暴利を監督したりするものです。

又、國家の警察權が勞働立法の基礎となることは重用なことです。たとへば、賃銀率、勞働時間、子供の勞働、怪我の辨償に關する法律などは、皆、一般國民の利益と云ふ處から割り出したもので、警察權の延長に過ぎないのです。云ひ直しますと、國家の警察權の延長と云ふことは、國民の全部が慈善などに賴らなくとも、皆、獨立の生活が出來るように、社會狀態を健全に整理し、無駄を除くと云ふことです。

警察權の消極的の方面には刑事政策と云ふものが、つまり、罪人を捕へたり、罰したりすることがありますが、これは分りきつたことでありますから、此處には略します。

行政機關の各部に專門家が必要

第三の傾向は、社會制裁、則ち、警察權の延長の必然な結果でありまして、つまり國家の行政機關の各部に專門家を割り當てようとする傾向であります。つまり、官吏登庸試驗を發達させて情實や政策で官吏を採用しないことであります。今日の處では政府の各機關の腐敗、又は、無能と云ふことが、私がわざ〳〵此處で申上げなくとも既でに皆樣が知り過ぎておゐでになる事實です。けれども、もし、政府の行政機關の各部に有力なそれ〳〵の專門家が椅子を占めて居つて、そして、國民に健實な建設的な批評眼が備つて居りますならば、今、私共が耳の痛くなる程聞かされて居ります收賄事件などは影をひそめるに致りませう。

で、英國の社會黨のシドニー・ウエッブは『社會を改良しようとする立派な意見も、其れを運用する專門家がないならば、其の意見も自滅してしまう。』と云つて、自分の主張を實行し得る人物を造るために、政治經濟の大學を造つて、其處で、有力な專門家を養成しては政府へ送つてゐます。

けれども、政府の行政機關の各部内に有力な專門家が居つて有益な方面に活動しようとしても、もし、國民全體が聰明でなくて、其れを理解しなければ、其の專門家も充分に働くことは出來ないと云ふことになります。其處で、結局は、前にお話し致しました群集の力とは全く性質の異つた健全な輿論が必要になります。

結　論

處で、一體、どうしたならば、其の健全な輿論が造られるでありませうか？　國民が、自分等は社會的動物であること、共同的精神を以てしなければ社會に平和と云ふものはないこと、從つて、自分等に幸福はないと云ふことを自覺しなければならないのです。

そして、新國民にさう云ふ思想を植へ付けるものは國民の母と、國民の敎師であります。歐米では、社會と云ふものを理解し、共同的精神を養ふには小國民に社會學を敎へるのが最善なものだとして、社會學の問題を中學の課程に入れ始めました。又、

合衆國の北ダコタ州では小學校で、既でに社會問題を取り扱はせて居ると云ふことです。併し、學課の中に社會學の問題が這入つてゐなくとも、先生方が其のつもりであるならば、地理でも歴史でも又は語學でも、其處に社會學の意味を附けて敎へることが出來ると思ひます。つまり、人間はどうして生きて居るか？どんな場合に爭ひが起るか？　なぜ、共同が必要かと云ふことは、どんなものでもを材料として敎へることが出來ると思ひます。

併し、此處で、私共が忘れてならぬことは、學校の先生方が正しい方法を用ひてどんなに努力なさつても、敎へられる子供が其れを了解し受け容れる素質を備へて居なかつたならば、先生方の努力も何にもならないと云ふことになります。そして、子供の即ち新國民の其の素質を造るものは國民の母であります。幼年時代から、さう云ふ方針で敎育され、社會問題を認めさせられ、それに對する聰明な智識を供給され、批評眼を養はれることによつて、やがて造られる輿論は健實なものとなります。



三浦環女史に與ふ

世界的の名聲を贏ち得て、故郷に錦を飾つて世間の稱讃と羨望の的となつて、得意になつて居られる環さん。其の環さんを思ふ時、不安と淋しさに私の心が暗くなるのは何故だらう。

それは、環さんの名聲と其の音樂的天分の輝かしさが環さん自身の心の目を遮ひ、眞實なものと僞ものとの見さかひがつかないと云ふ不安、其の結果はあの美しい藝術が枯れはしまいかと云ふ淋しさである。

さう云ふことを感じて居る矢先き、五月十四日の時事新報の夕刊は『美を誇る環夫人』『國と夫を捨て、米國へ』『家庭の女となるには美し過ぎる』と云ふ見だしで、環さんが藝術のために良人をも家庭をも祖國をも捨てると云ふことを報じた。そして、それは私の杞憂の圖星であつた。

そして、環さんの藝術的味方り？と稱する某氏は『吾々は環さんの藝術的天才を尊敬して出來る限りの援助を與へるのであつて、彼女を家庭の人として考へる遑はない……』と放言し、環さんに三浦氏と云ふ良人のあることを無視しやうとしてゐる。

世に此の位、不遜な態度、不德な言があるだらうか他人の夫婦關係を無視することは、社會の秩序を亂し他人の幸福に危害を與へ、他人の貴き幸福を盜む罪人である。一寸したことにも、よく、ツベコベと文句を云ふ世間が、なぜ、其の某氏の不遜な態度と不德な言を

聞き流して居るのであらうか？　恐らく、これは我が國の道德の標準が低いことを語るものであらう。

藝術は人生の花である。けれども、其の花には幹も根も無ければならない。そして其の幹、其の根は藝術家の私生活である。私生活が正しく鞏固であつてこそ其の人の藝術には生命があり、香ばしい其のかをりは天に迄も屆くだらう。

實に其の頂上は天空を摩き、繁茂した枝は數千數百の鳥類に宿を提供するやうな雄大な樹木も、或は又、地面から一寸程も其の頭を擡げることが出來ないやうな貧弱な矮小な草も、同じやうに地の中に根を張り、土の中の滋養を攝つて生きて居る。根を地につけて生きて居る以上、大きいのは大きいなりに、小さいのは小さいなりに同じやうに新鮮な氣を吐いて有意義な生活を營んで居る。

人間も其の意味で、社會的の位置が最高にあらうとも、世の中のどん底にしがない生活をして居やうとも又は、藝術界の花と咲き誇つて居やうとも、其の根が地について居ないならば言ひ直せば、私生活がアヤフヤであるならば、いつかは風波を捲起して我も人も苦しみ、果ては折角惠まれた天才の花も萎まねばならぬやうなことになる。其れが私の不安であり淋しい感じが起る所以であるのだ。

單に、美しいと云ふこと、音聲が淸らかと云ふことならば、人間以下の動植物のうちにも、いくらもある。けれども、容貌の美と音聲の美に人間的價値、則ち、精神の美が加はつた時に、其處に始めて私共が尊敬し稱讚する價値があるのだ。そして、其の精神の美とは、眞人を良人とし、親を親とし、祖國を祖國として、他人の阿諛と親身の者の眞實な愛とを見分ける聰明さと、正しきに從ふ忠實さがなければならない。自分の半身である筈の眞人を差し置いて、不遜な他人の言葉に耳を借すやうな浮薄な態度に出ないことである。

私の不安と淋しさは環さんの藝術に關してばかりでなく、環さん自身の將來の私生活に關しても同樣である。

四谷見附の櫻は長年の間、其の附近の人々、通りが

ゝりの人々を喜ばせてゐた。晴天の時は勿論、「雨の櫻」だと云つては、又「夜櫻」だと云つては多くの人が櫻のまはりに集つて、咲き誇つてゐる櫻を愛でゝ居た毎年の新聞紙上の「櫻便り」には必ず「四谷見附の櫻」も書き入れてあつた。けれども、四五年前の十月の大嵐に此の櫻はさん〴〵に傷けられて其れ以來は春が來ても以前のおもかげは消えて、新聞紙の「櫻便り」も何時の間にか「四谷見附の櫻」を除外してしまつた。道行く人も「此處の櫻はもう駄目だね」と、しり目にかけて行き過ぎてしまう。

本當に其の人自身を愛すのでなく、唯、單に、美貌や美聲を愛づる人は、此の櫻見る人と同樣であることを、環さんは御自身の永久の幸福のために、考へて見なければならない。

人間の花、藝術の花は此櫻の運命とは別なものだと誰が云ひ得やう。生れたものは必ず死ぬ咲いた花は必ず萎む時がある。

學問に國境がないやうに、藝術にも國境がないことを私も認める。であるから、環さんが其の藝術を外國に發揮なさらうとすることは結構である。けれども、外國人に一時もてると云ふことに心が驕つて、自分を生んだ祖國、眞實な愛の所有者なる御良人をないがしろにするならば、惜を千載に殘すやうになると私は云ひたいのである。

外國人がどんなに環さんを愛さうとも、環さんの黑い目が靑くならず、黑髮が金髮にならず、黃色味のある皮膚が純白にならない以上は、環さんは矢張り日本人である。そして、日本人である以上は日本國が環さんの最上な保護者である。又、環さんの藝術的味方？とやらは、唯、環さんの一部分なる藝術のみを援助しやうとして、或は、環さんの一生を誤らせるかも知れないのに反して、環さんを全體的に愛し、環さんが今のところ自分の生命のやうに思つてゐる肉體美や音聲美が無くなつても、猶且つ、環さん自身を、つまり、環さんの魂を抱きかゝへていたはり慰める人は環さんのために長年苦しみ耐へ忍んで居られた御良人より外はない。

であるのに、今、環さんが他人の又は外國人の一時的の歡心を買ふために、永久の保護者なる祖國、眞實の愛護者たる御良人に背を向けることは大きな不心得で、環さん自身の將來のために私の深く遺憾とする處である。

感想

原田琴子

子供は小さな床の中で、靜かに眠つてゐた。私は襖をあけた次ぎの間の火鉢のそばで、本をよんでゐた。と 不意にガタ／＼と障子や戸が鳴り始めた、地震――それはかなりにはげしい地震だつた。私ははじかれたやうにたち上ると、何を考へる猶豫もなしに、子供のそばへ走りよつた、そして、無心に安らかな寢息をたててゐる子供を、抱きあげた。――その間にも振動は一層ひどくゆれて、柱はキイ／＼と音をたてゝゐる――。私は殆ど夢中で障子をあけて椽へ出て、そしてはだしのまゝ庭へ下りた。

小刻みにふるへる足をそれでもしいて力强く ふみしめようと努めながら、私はゆれてゐる家を眺めた、不安が心の中一杯に擴がつて、どうしようもなかつた。怖ろしい、ただ怖ろしい！ ほんとうにその外に考へはなかつた。がやう／＼振動が止んで、まあ よかつたと思ひながら臺所口の方へ足を洗ふために行く時は、もうそんなにも驚き、恐れ、あわてた自分が、たまらなくはづかし



くさへなつた。かなりの強震であつたには違ひない——けれどもなぜあのやうに理性も みえもまろで失つて、私の心は恐ろしさにのみふるえたのか？ 一體 私はこの數年來、餘計に雷や地震のやうな天災がこわくてならなくなつて來た。

「つまり死ぬのがいやだといふ欲があるからだ」

と人は云ふ、子供のために一日でも永く生きてゐたいと思ふ心が、無意識の間に働らくのかもしれないと、私自身も考へた。だがそればかりで說明がつかうとも思はれない。或ひは人間の力の及び難い偉大なものからの暗示によつて、殊に 恐れを感じるのではないだらうか、事實雷とか地震とかいふ天災のために命を失ふべき運命が、遠からず 私を待つてゐるのではないだらうか。さう考へると一層私の恐怖は增した。

あの四月——日の強震以來私はほんとうに寢ても醒めても地震におびやかされるやうになつた。鼠が天井を走つても、門の外を自動車が通つても、すぐ地震——と思つて 立ち上らずには居られない。私はまづかう考へて、なにしろ こゝの家は大分古びた粗末な建方の家である、地震の時はどこの家よりもまづ第一番に倒れるものと思ふべきである、だから屋外へ出た方が 安全であらう——瓦が飛んで却て危ないなどゝいふけれども、少し位の怪我なら家にゐて 潰されるよりはまし



である。よく潰れる家なら第一の振動で潰れてしまふ、数分間もゆれてゐてそれで潰れなければ大丈夫だなど〻云ふけれども、それもあてになつた話でない、ゆれて居るうちに家が傾むく、そしてはづみで倒れてしまふ——ことがないとも限るまい。箪笥のかげのやうなところに居れば、潰れても大丈夫といふけれども、これは一層頼りない話である、箪笥のかげでまづ〳〵大した怪我もせず體を少さくしてかがんだま〻救助の人を待つ間に勝手の方からも火が燃え出したらどうであらう。家が潰れ〻ばつゞいて火事の起る事はあまりに必然な事である、身動きも出來ずに生きながら火に燒かれる——お〻思つてもぞつとする、オルレアンの少女のやうな場合なら格別、たゞ地震のためではあんまり情けない。それならいつそ一と思ひに潰された方がい〻。ところで外へ出るとすれば、どこへ出るのが一番安全らしいであらう。やつぱり往來かしらと私は考へた。私の家の庭はごく狹くて、もし私の家が倒れ、隣家も倒れるやうな場合には、たとひ庭へ避難したとても駄目な事である。(此間の地震の時は、たゞ庭が近かつたので、何を考へるひまもなく、庭へ下りたのだつたけれど)では往來——これとても廣くはない、横町通りの自動車も公然とは通れないほどの狹い路なのである、兩側の家々の門や家屋が倒れるやうな際には、往來とても決して安全な逃れ場所ではない。ではどうすればい〻のだ！　やつぱり家にじつと坐つてゐて運命を待つほ



かに致し方がないのだらうか。最後にかういふ結論に到達すると、私は暗然として立ちすくむばかりであつた。見果てもしれない暗黒の人生のなかにたゞづむあはれな弱い人間の運命！ 學校で天文の事を習つた時、どこまで行つても限りのないといふ宇宙の不可思議さをきいて、戦慄したその時と同じに恐怖が、今私の心には一杯になつた。天災は不測である、さうして逃れるみちはない、さう思ふと私はこの人生に何の希望をも繋げなくなるのであつた。

私はあの四月――日の强震があつてから今に到るまで、一日として地震といふ考へから解放されたことがない、自分の意生地ないこと、つまらぬことをどんなにか恥ぢながらにも。だがこゝに一つ不思議なのは、さうして私の云ひたいのは、私が獨りで居る時は一層不安で、そばに居る人が多ければ多いほど、いく分その不安を薄らぎ得るといふことである。一體私は氣むづかしくてなか／＼他人と調和が出來ないので、子供の時分から孤獨が好きだつた、獨りでゐるほどらくな、自由な、快よい事はなかつた。それが一度びそんな恐怖に襲はれて來ると、無念に人が戀しく、誰かそばにゐてくれゝば、まづ／＼と思ふやうなあんばいになつた。これは抑もなに故であらう？ 私はそれをよく考へてみたいと思ふ。そこから新らしい何事かを得られるかのやうに思ふ。



桑港ニュース

桑港から手紙も端書も參りました。けれども、桑港は山田嘉吉氏にとつては第二の故郷とも云ふべき處でありますから知人も多く、僅か二日や三日の滯在では隨分忙しかつたらうと思ひます。其のせいか、桑港の委しい情況は報じてありません。其の代り、新聞クロニクルを送つて呉れました。で、私は、其の新聞のうちから興味あるものを四つきりました。左に掲載致します。

兩性調節の曙光

牛津大學のジュリアン●ハックスレー敎授はあの大科學者ハックスレーの孫でありますが、此の度、同敎授が『性の秘密を發見した』『あの世界大戰爭の結果女子の過多に悩んでゐる歐州諸國へ、兩性調節と云ふ難問題解決の曙光を與へ

たと云つて、桑港のクロニクル紙は大々的に其の記事を掲げてゐます。

實際、歐洲諸國に於ては、女子の過多に惱んでゐます。あの大戰爭前ですらも海外に移住する靑年男子が多いために、結婚難に惱む女子の數が少なくなかつたのにあの戰爭で無數の男子を失つた、今、其の結婚難がどんなに增大されたかと云ふことは想像に餘まりがあります。そしてこれは、英國でも、白耳義でも、佛蘭西でも、獨逸でも、皆、同じなのです。

結婚が不可能であると云ふことは、第一、個人の不幸、第二には民力の減退、引ひては出產率に甚大なる影響を及ぼします。マルサスが何と云はうと、產兒制限論者の意見が何であらうと、過去の事實に輝して見るならば出產率の低減は、確に、其の國民に不幸を齎して居る。人口過多が國民の不幸を釀すと云ふことは智力的に非常に後れてゐる國民間にはあるだらうが、進步的の國民間には無いことだと云はれてゐます。

英國に於て、如何に女子が過多であるかと云ふことは、統計に現れた數字によらなくとも、路上を步む人々を一見したゞけで、其の事實を知ることが出來ると云ふことです。

で、多くの學者、殊に、社會學者が此の事實に、多大な注意を拂つて居ますし又、知力階級の絕へざる話題となつて居たのでありますが、ジユリアン●ハツクスレー教授は男女の數の調節は人工的に

可能であると云ひ出したのです。

ハックスレー教授は、牛津大學に於て生物學に興味を持つて居る最も輝しい青年の群のうちでも、最も著しい光彩を放つてゐる、非常に眞摯な青年で、彼は彼の科學的の頭腦が承諾しないならば、如何なるものをも排斥するに躊躇しないと云ふ風の人です。

で、ハックスレー教授の發見した原理と云ふのはどう云ふことかと云ふなら。一體、生物の肉體は化學的要素からなつて居るのであるから、其の要素の供給の多寡によつて、女が出來、男が出來、又女が男に變り、男が女に變ると云ふのです。

又、此の原理を、家畜になり、家禽になり應用するならば、雌雄の數を自由に都合よく造ることが出來て非常に有利であるとも云つて居るのでありますが彼が此の結論に達する過程は次のようになるのです。

生物學者であるハックスレー教授は、勿論、あらゆる生物の發生及び其の發育の過程に緻密な注意を拂つて居ました。そして、彼は甲狀精（サイロイド・エキスフラクト）を應用して動物の發育を刺戟し、殆んど、奇蹟のように成長を早くしました。

此の甲狀精は普通羊の甲狀腺から抽出したもので、發育を非常に刺戟するし、又、腦の働きをも刺戟するものだそうですが、ハックスレー教授は、これを試驗的に蝌斗（オタマジヤクシ）に應用して見ました。そして、

三ケ月かゝつて成熟期に達すべきものを三週間で成熟させました。

で、彼は其の次に動物の性を前以て定める方法を研究し、ツイに興味ある結果を得る曙光が見へたと云つて居るのです。つまり、動物にしろ、人間にしろ、其の方法がよろしきを得れば、男性でも女性でも好む方を生むことが出來る。男の子を持つたり女の子を持つたりすることは科學の力の範圍外だと考へる必要は無くなると云ふのです。

それから、又、一歩進んで、既でに成熟して居るものゝ性が變り得るとも云つてゐます。成熟した昆蟲の性が變はる場合があることは既でに實證された事實だそうですが、ハックスレー教授は鳥類の性も變ることを聲明したので、これは、全く新しい發見だとされて居るのです。そして、彼の聲明を證據立てるために彼が提出した事實を見ては疑を挾む餘地はないとされてゐます。

教授は申ます。『雛のうちではなく、もう、成熟した牝鷄の中から雄性が完全に發達して來る場合がある』と。

そして、かような場合は、其の牝鷄が攝取するものゝ中に雄性となる要素があつて、そして、化學的作用を起した結果であると斷定して居ます。

これは驚くには足らない說だと云はれてゐます。なぜなら、或る化學的物質が多う過ぎても、亦、少な過ぎても、其れが人間の智力的活動の障碍となるし、又

所謂精神虛弱者の多くは、或る化學的要素の供給が缺乏してゐるので、缺乏して居る其の物質を絕へず供給することによつて、虛弱な精神を强壯にすることが出來ると云ふことは、米國の研究家の既に說明して居る處です。

けれども、ハックスレー敎授の『我々が或る要素を發見する可能力を持つて居ることは興味ある問題だ。そして、其の要素を注射すれば、成熟した人でも、男を女とし、女を男とすることが出來る』と云ふ言葉は驚くに足るものです。實に此の位驚くべき言葉は現代の眞面目な科學者の口から吐かれたことはないと云はれてゐます。

鳥類の雌が雄に變つた事實に付て敎授

は說明して云つてゐます。『記憶と云ふことを本當に僅かしか持つて居ない動物があるとする。たとへば、牝鷄が牝鷄としての本能と習慣を持つてゐるとする。けれども、雄性を構成する化學的要素が供給されることによつて其の牝鷄には雄性が追々と發達して行く。そして、牡鷄としての本能と習慣を獲得して行くうちに以前持つて居た牝鷄としての本能と習慣を忘れてしまう。そして、これは其牝鷄が老いてゐても、若くても同じなのだ』と

そして、これは、亞米利加の學者達が『犯罪人の大部分は丁度さう云ふ罪惡を犯すような化學的要素を其の體內に取り入れて居る結果だ』と云つて居るのと符合して居ると云はれて居ます。

ハックスレー教授は、甲殼類のうちの水蚤を研究して、此の動物が其の殼を脱換する度毎に雌が雄になつて行くのを發見したのです。で、教授は云つて居ます。『雌性の增加が或る程度迄達すると、今度は、雄性の增加と云ふ方に方向が轉換するが、要するに、雌性が充分出來てしまつた後には、雄性となる要素が累進的に增加する結果である』と。

で、クロニクル紙が大々的のみだしを掲げて、性の秘密が解決されたように、又、人間其れ自身が體的の革命期に到達したように云つても、實は、まだ、やうやく、其の曙光を見たと云ふに止まるのです。併し、それでも猶世界の驚異であるに相違ありません。

ウオルストンクラフト女史の肖像

十八世紀の後半を震駭せしめた婦人運動の急先鋒メリー●ウオルストンクラフト女史の肖像をシンボルとし、此の光輝ある美しい女性を主役として、女流劇作家ジョセフイン●ピーバデー女史は一つの劇を仕組みました。其の劇の名は『ウオルストンクラフト女史の肖像』と云ふのです。

ウオルストンクラフト女史は佛蘭西大革命の大旋渦の中へ躍り込んで、兩性關

係の革命を絶叫しました。妻達が賣買され、女子が男子の動産として取扱はれて居ることに對して、女史の憤慨は極度に達したのでした。

其の當時の結婚法の改革を叫んでも〳〵容れられない其の失望、懊惱、併し勇氣をふるい起そうとする努力が此の劇の主眼となつてゐます。

其の當時女史は『哲學的の惡魔』だとか『女裝をした狼狽(ハイーナ)』だとか渾名されたのですが、女史の美貌は其の渾名に決して相應しくないと云はれてゐます。

其の當時の知者、哲學者、青年詩人サウゼー、畫家ジョン・オーピー（此の畫家の描いた肖像が此の劇のシンボルとなつたのです）サラー・シドンス、ジョン・ケンブル及び機智に富んだ、併し、惡意あるインチボールド夫人達を背景に、美しいそして理想に生きる婦人運動の先鋒者を色彩濃く現して、其の對話のうちに性格を研究しようとするのが此の劇の目的なのです。

ウォルストンクラフト女史の一生を語るに付ては、女史の娘のメリーを無視することは出來ません。此の娘は詩人シエリーに愛され、燃ゆるような胸に其の愛を受け容れ、其の愛人と手に手を取つて父母の家を捨てました。娘メリーの父ウイリアム・ゴドウインが詩人シエリーに對する態度は餘り感心出來ないものだつたそうですが、とにかく、妻のメリー・ウオルストンクラフト女史に對する彼の

愛がウヰリアム●ゴドウヰンの無味乾燥な一生のオーシスであつたように劇作家ジョセフヰン●ピーバデー女史は取り扱つてゐると云ふことです。此の書物が手に入り次第、大體に於てゝも早速御紹介したいと思つてゐます。

大都市の花園化

『花！　花！　花！

『桑港と云へば、直ぐ、此の花と云ふ考へがまるで魔術にかゝつたかのように我々の心に甦る。實に、加州は花の地であり、別けても桑港は米國に於ける園藝の盛んな地であるから。

『自然は――日光と氣候――此の土地を惠み、花の家と爲すべく企てゝ居るのであるが、花の餘まりに豊富なのに慣れて市民は此の天惠を忘れようとしてゐる。

『其處で、クロニクル社は此の都市を一大花園化するための運動を全市に渡つて開始する。そして、此の計畫の成功には老若男女を問はず全市民の手を必要とする。此の計畫を無視するやうな不遜な富者もなく、又、一鉢の草花一袋の種子を購ひ得ぬような貧者も此の都市には無いことを信ずる。』

と云ふ理由の下に、クロニクル社は花の栽培を奬勵し、優等者に賞金を提供し

ました。

表庭　一等百圓。　二等四十圓。
　　　三等二十圓。
裏庭　一等百圓。　二等四十圓。
　　　三等二十圓。
窓庭　一等四十圓。　二等二十圓。
　　　三等十圓。

窓庭と云ふのは、窓枠の上に土を盛つた箱を置いて花を栽培するのです。これは部屋借りをして居る人達に適して居るのです。金門公園（ゴールデンゲートパーク）を設計したジョン●マクラレン氏は此の計畫を非常に喜び、熱心に市民に勵めて居ると云ふことです。恐らく、氏は氏の才能の全部を提供して市民を援助するであろうと想像されてゐます。クロニクル社は、又、次のように云つてゐます。

『花に對する市民の趣味の增進を目的とする此の企ては素晴らしいことである。これは全市民の競技であるから。其の受賞者達が賞金を得ると同時に、各市民は花と云ふ報酬と技藝と云ふ報酬が得られる。其の報酬を得た上に、全市に亘る大計畫の一部員であることの光榮を各市民は持ち得る。

『併し植木職人、又は、植木營業者は此の賞金を得る資格がない。賞金を受ける人は九人だが、其の人達は現金を受取るのも惡くはないし、殊に此の花の國のうちの最大都市に於ける優秀なる家庭園藝者の一人であると考へることは更に愉快であらう。

「これは、あらゆる汚物を此の都市から吹き飛ばして仕舞ふだろう。鋤や鍬は雀躍として其の顔を光らせ、そして、全市の同僚に通牒を發するだろう――我々が新記錄を造るべき時が來た。世界の驚異である此の金門の都に於てゞすら以前には決して咲かなかつた程の花を我々の腕で咲かせなければならぬ――と、云つて。

『今年は三十萬の人々が米國の隅々から當市に於て開かれる great Shrine convention に參加する爲めに來訪される。其の人々のうちには、此の地球上に知れ渡つた有名な都を始めて見る人もあるだろうそして、彼等は寶石のやうな花で飾られた此の都を見るべく期待してゐるだろう。

『我々が此の三十萬の來賓を喜ばせ、そして、全市花で埋まつてゐる桑港は魔術師の手に成つたような都であると彼等に思はせ、家々の各窓からは輝いた花が彼等に挨拶して居たと云ふ記憶を彼等の頭に印象して置くことは實に愉快ではないか?!」

人力車と自動車

『本船を乘り捨て、ランチで波止場へ急ぐ時には日がドップリ暮れて闇が横濱港

の周圍を覆ふてしまつてゐた。けれどもぢきに、螢の群と覺しいものが波止場の上をあちこちと動いてゐた。近かづいて見ると、其れは人力車の提燈であつた。紙の提燈、奇妙な、道を輝すあかりであつた。自分は、紙の提燈が實用に供されるものだと云ふことを以前には夢にも思つて居なかつた。

『けれども、日本では、人力車の各々に一つ〳〵其の提燈が結び付けてあつて、ユラ〳〵搖られながら車夫の足許を明るくしてゐる。東洋風の其の方法で運搬されて見たいと思ふ自分の希望は、合衆國の案出になるハドソン自動車のために覆へされてしまつた。其の怪物のために、ミス〳〵其の日の稼ぎを奪はれた車夫のうらめしそうな顏を見ながら、自分達は無味乾燥な、けれども、有効な方法でホテルの表庭へ運ばれて行つた。宮ノ下の其のホテルには無數の自動車が並んでゐたことをつけ加へて置かう。』

と。これは一米國人が始めて横濱へ來た時の所感の一つですが、そして、日本人も追々自動車を利用するようになつたと云ふことなのですが、紙の提燈と人力車がほめられたのだか、くさゝれたのだか、わけが分りません。

北米合衆國横斷の記

山田嘉吉

四月二十六日　ホノルヽ着。上陸するや否や自動車を飛ばしてホノルヽの隅々迄も詳細に見て廻つた。十時間の自動車代が百圓であつたことを思ふなら、出來るだけ多くの場所に足跡を殘すために、どの位努力したかが想像出來るだらう。直ぐに、又、船上の人となつた。船は間もなく桑港差して急いだ。東京に於ける一大强震、其の被害の甚大なる報を得て心が穏かでない。

五月三日　桑港着。フエーアモント・ホテルに入る。これはロッキー山以西に於ける第一等の旅館と稱せられてゐる。建坪一町四方、其の位置は市街の最高所であるから、桑港灣を一眸のうちに抱へてゐる。建物の偉大、内部の裝飾の華美は到底筆紙に盡すことは出來ない。料理は精巧を極め、取り扱ひには細心の注意を拂つてゐる。けれども、船中に居た時と同じやうに、食卓が華麗で贅澤であればある程、何にもない最も單純なうちの食卓を戀しく思ふ。新聞クロニクルを送る。愛讀者諸兄姉に興味ありそうなことが書いてある。（記者云ふ。四十八頁を御覧下さい。）桑港の人口七十萬に對し自働車が三十萬臺あるは驚く。東京の人口二百二十萬に對する自働車が五千臺ばかりであることを思ふなら。桑港滯在は二日間の豫定であつたが、一日延びた。六日午後四時桑港を去りヨセミテに向ふ。

五月八日　ヨセミテ着。ヨセミテ・ロッヂ投宿。幹の周圍は百尺以上あり其の高さは其の太さによく釣合が取れてゐる大樹、其の大樹の年齢は五千年から八千年であつて、今日猶生氣滿々としてゐるから不朽の大樹と歌はれてゐる。其の大樹の森林を一部としてゐるヨセミテ國立公園を見物した。實に、これは世

の驚異であるのだ。同船者であつた東北大學の馬場氏がヨセミテ瀑布を背景に私の寫眞を寫つて下さつた。後日東北大學から送ると云はれた。

其の晩雪が降つた。昨日は夏景色、今日は冬景色と此の世界的公園の二様の景色を一度に見たことを喜んでゐる。併し、此處では我々日本人に對しては差別的な待遇をした。其の卑劣な態度を私は米國人のために惜しむ。

五月十日　早朝ロス・アンゼエルス着。アレキザンドリア・ホテル投宿。常春の國、最上な保養地として知られ、果實類、殊に、オーレンジやレモンが饒多に産出される當市へ來て朝食をとつた。日本人は、今、此處に大いに發展してゐる。日本人の數は二萬と算せられてゐる。加州に於て、以前には桑港にあつまつてゐた日本人の勢力が、今は、南加州の此處に移つてゐる。

五月十二日　ソートレーキ市着。ユタ州の首都、モルモン教徒の手で建設された當市へ來て、多妻主義で有名な、世界一のオルガンのあるモルモン教の本山を見物した。

ソートレーキより東に向つて七八時間走るとロッキー山の絶景の個所に差しかゝる。それから、日本の富士山の九合目程の高い處を汽車は突破するのだ。此處へ降る雨は、西側へ落ちれば太平洋に、東側へ落ちれば太西洋に流れ込むのだ。此處が所謂米大陸の分水嶺だ。やがて、ローヤルゴルヂを通過したのだが、其の雄大なる絶景は、唯、驚くと云ふより外に言葉はない。

五月十四日　キヤンサス・シテー着。バルテモーア・ホテル投宿。ロッキー山以東の太平野から産出される農産物集散の中心點が當市である。

米國では一流の旅館を除いて、大抵の旅館では奇怪極はまることをなすゝめに來る。恐らく、日本人旅行者が、かくの如き汚らはしき習慣を造つて置いたのだらう。米國は物質上の狀態がよくなればなる程道德が低下して行くことを悲しむ。市中見物のついでに女子基督教青年會を訪れて其の事業を見た。十五日午後六時に當市を立つ。シカゴに居られる市川

房枝女史に電報を打つた。
五月十六日　シカゴ着。ラ・サール ホテル投宿。早速、市川房枝女史に逢つた。東京を離れてからの、最初の東京からの音信に此處で接した。故郷の一同が皆無事であることを喜ぶ。市川女史の案内で、其の日は、世界第一と云はれるデパートメントストーアなるマーシャルフイルド、美術館、圖書館、博物館、ワシントン公園、シカゴ大學、ジャクソン公園、日本人青年會、活動寫眞、十七日は農具製造會社、ハルハウス、及び世界中に獸肉を供給する屠殺場を見物した。ハルハウスを訪れた時は朝餘まり早かつたゝめにアダムス女史には逢へなかつた。「一九二一年のハルハウス年鑑」を送つた。

オー、あの屠殺場。地獄とはあのことだ。牛、羊、豚などがノソ〳〵歩いて行つては器械の中へぶち込まれ、いろ〳〵の器械を通つて、いよ〳〵、店頭に持ち込まれる肉となつて、又は罐詰となつて出て來る。それがみんな見へる。其れを見た私は今後獸肉を食ふ氣には決してなれない。

農業の狀態が良好で、其のために商業が好況を呈してゐる。何にもかもが大規模で、米國のやり方に比べるなら、日本でしてゐることは何にもかもが赤ん坊だ。

歐洲へ貸した金を米國は取り戻したくないと思つてゐる。なぜなら、米國人が消費する物質は、どんなに多く見積つても、米國の全產出高の四割は使ひきれない。殘る六割は他國へ輸出しなければならない。其の他國とは歐洲のことなのだ。處で、歐洲は米國からの借金を返濟するならば、米國からものを買ふ資力がなくなる。だから、借した金を取り返へすよりも國內で剩る物資の捌口を閉さない方がいゝと米國の政治家は考へてゐる。

此の頃婦人服は少し長くなつて來た。今迄のような、膝迄もないような馬鹿氣た服を着なくなつた。これは婦人達がやうやく眞面目に歸へらうとして來たしるしだ。亞米利加人が善良な風俗に歸へらうとする傾向を見せて吳れたことを喜ぶ。今夜、十二時三十分發の汽車でシカゴを立つ。

五月十八日　デトロイト着。スタツトラー・ホテル投宿。此處は、自働車製造の世界的中心地である。殊に、フォード自働車を發明したヘンリー・フォード氏の事業の根據地であるのだ。

五月十九日　ナイヤガラ着。ナイヤガラ瀑布の或る個所は其の幅一〇六〇尺。高さ一六〇尺。一時間に排出する水量は一億噸あると云ふ。雨のために無双なる其の光景がはつきりしてゐなかつたことは遺憾だ。夕刻紐育へ向つて出發した。

五月二十日　紐育着。ペンシルバニア・ホテル投宿。いよ／＼米大陸を横斷してしまつた。太平洋の沿岸桑港に上陸してから十八日目で太西洋の沿岸紐育へ今、來たのだ。流石に合衆國の首都である。今迄に見たどの都市よりも雄大、華麗、其の上に淸潔である。ハドソン川の岸に立つて美しい水の上を眺め渡した時には、何とも云へぬ感に打たれて、此の時ばかりは、うちを離れてゐると云ふ淋しさを一時忘れた。

ペンシルバニアホテルには室數が二千ある。其の二千の各室に風呂場がついてゐる。だから風呂場も二千あるわけだ。一晩の宿泊料三十二圓、私の室は五百〇四番で、寢室と客室と二間續きである。今迄に宿つたホテルのうちで此處が一番立派だ。

編輯の後

山田嘉吉氏から紐育の第二信が一日二日のうちに來る筈ですが、それを待つてゐては本號の發行が餘まり後れますから、其れは次號に讓ることにしました。日本の文字を忘れてしまつてゐる嘉吉氏の書簡は全部英語ですから、英語をお讀みになる方達のために原文で出したかつたのですが、それでは英語をお讀みにならない方のために惡いし、兩方出しては紙面をとり過ぎるし、止むを得ず譯文計りにして置きました。

◎卷頭論文が餘まり長がすぎたゝめに『教育社會學』を又休んだ事をおわび致します。

本誌定價表

一册	金二十五錢	送料五厘
六册	前金　金壹圓四十錢	（送料共）
十二册	前金　金貳圓七十錢	（送料共）

雜誌代及郵税は前金の事■御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割增■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十一年六月二十三日印刷納本
大正十一年七月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人　大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

□山田わか著

再版

戀愛の社會的意義

□四六特三百五十頁　定價金貳圓□
□總クロース美本　送料金拾五錢□

目次大要

富を造る事と幸福を造る事――戀愛と結婚――戀愛に對する男子の態度――菊榮氏の「女も進んで求婚すべし」に附て――結婚道德の一ツ――墮胎に附て――戀愛の自由と本能――女子敎育の基調――産業機關は臺所のため――戀愛と藝術――家庭を追はれた産業婦人――婦人運動の歸着點――メレデスの靈肉觀――母と社會政革――婦人の智的生活――禽獸の親子關係【其他十七問題】

發賣所　振替東京五三六八八
東京市四谷區南伊賀町四十一番地
婦人と新社會社

山田わか女史著

新刊

家庭の社會的意義

四六判ポイント活字組五〇〇頁洋布装函入美本　定價金二圓八十錢　書留送料十八錢

新しき自覺の上に人間性の發揮を主張する堂々たるこの文字！

果然反響は現れたり、發賣以來註文殺到！

日頃「婦人と新社會」を愛讀せられる諸兄姉は是非、更に進んで本書を一讀せられんことをお勸めいたします。何故ならば本書にはわが婦人評論家の隨一たる山田女史の主張が一貫して、秩序正しく述べられてあるからであります。婦人は之に依て彌々自己の使命を明確に覺ることが出來、男子は之に依つて眞摯なる婦人の要求が奈邊にあるかを知ると共に、社會の改造が如何に家庭の改造に俟つべきかを敎へられます。

内容　家庭の進化―婦人問題と家庭―戀愛と結婚―婦人と敎育―婦人と産業―婦人と政治―母性の革命―母性保護と新國民―現代思想と責任觀―家庭の使命―（以上十編四十一章）

發行所　東京市神田區中猿樂町一七　近代文明社　電話九段二二五六番　振替口座東京五八五八六番

婦人と新社會

山田わか主筆

八月號

人間の生活と動物の生活

消費組合の目的

集合的表現と知的生活

紐育ニュース

獨身者彈劾◎女の中の女◎自已統御の方法◎大學卒業婦人の電話係り◎禁酒國に於ける飲酒犯及び其の他の犯罪增加

女戰士の武器

悲痛なる女性の聲

キューバ及び合衆國（南部めぐり）

ある夜の出來事

教育社會學

每月一回一日發行　第參拾號　大正十一年八月一日發行

